

大学の祈り

塩 谷 直 也

「主を畏れることは知恵の初め。」¹（箴言 1 章 7 節 a）

祈り

天の神さま²。

私たちはたくさんのことをおそれています。どのような評価を受けているか、名声を失うのではないか、結果を出せないのではないか、生活は、老後はどうなるのかとおそれ、時として身動きが取れません。神さま、迷う私たちを憐れみ、本当におそれるべきことを教えてください。すなわち、正義が確立しないこと、そして事実立脚して発言しないこと、そのような誤った道に進むことをおそれる私たちでありますように。学生一人一人を、弱い立場に立たされた者を、もしも大切にできないのなら、そのような状況をこそ、最もおそれ、避けようとする私たちでありますように。この会議の始めから終わりまでをあなたの導きにゆだねます。

1 この「畏れ」(הָיָה)は神への畏怖、畏敬、愛と尊敬を含意するが、(文字なしで)口頭で読まれた場合、聴衆は恐怖としての「恐れ」と区別はできない。הָיָהに恐怖の意味も含まれていることを考慮し、実際の祈りにおいては「おそれ」と表記し区別せずに用いている。

2 すべての祈りでこのような神への「呼びかけ」が用いられるが、煩雑さを避けるため、本論ではこれ以降、特に必要と思われない限り「呼びかけ」は省略する。しかしそれはこの「呼びかけ」が重要でないことを意味しない。いやむしろこの「呼びかけ」ができるかどうか、祈りの決定的な分岐点なのであるが、その意味については改めて論じたい。

イエス・キリストの名によって祈ります。アーメン³。

(2017年4月24日 学部長会⁴ 開会祈祷)

青山学院大学宗教主任研究叢書『キリスト教と文化』(25号、2010)(26号、2011)にて「教授会の祈り」「教授会の祈り2」と題し、青山学院大学法学部教授会の開会祈祷に関する筆者の取り組みを紹介した。それらは幸いにも学内外において用いられ、変化の目まぐるしい都会の大学で150年近く祈りの伝統が続いていることに、少なくない驚きの声が寄せられた。同時に他のキリスト教学校教員から引き続き「祈り」の公開を求められた。各学校ともクリスチャン教員の減少により、一部教員の「祈り」の負担が増している。いわゆる「成文祈祷」を持たないプロテスタント諸派の学校において、信仰を持たない一般の教職員にも理解可能でありながら、建学の精神を伝える「祈り」のひな型、マニュアルが欲しいとの要望であろう。今回はその願いにこたえる一歩として、教授会以外で行われる大学各部の多彩な祈りを集めてみた⁵。

構成は大学の新任教職員研修、学部長会、同窓会、募金イベント、体育会、及び宗教センターが毎朝行う始業時に行われた筆者の祈りに、脚注解説を付す形とした。各祈りの前に聖書が読まれている場合とそうでない場合があるが、今回、聖書引用は全て省略する形で統一した。なお藤原淳賀⁶が行った箱根駅伝4連覇の祝勝会開会祈祷を付録とした。この藤原の祈りは、勝負を決するスポーツに、キリスト教信仰の立場からどのような祈りが勝者と敗者に対して可

3 この一行もすべての祈りにおいて末尾に加えられるが上記の理由で省略する。

4 青山学院大学の学長、副学長、10学部の学部長、3専門職大学院の研究科長が出席する大学会議。授業期間中、月2回のペースで行われるが、大学宗教部長の祈祷によって始められる。

5 2017年4月より大学宗教部長という役職が筆者に与えられ、法学部以外の大学全体の会議、会合、総会、イベントなどでの開会祈祷を求められることとなった。それらの経緯も本論作成のきっかけとなっている。

6 青山学院大学地球社会共生学部教授、宗教主任。2017年から2018年にかけて、陸上競技部長距離ブロック(駅伝チーム)の壮行会、スタート、箱根折り返し地点、ゴール、祝勝会と同伴し、祈りによってサポートした。

能なのか、示唆を与える。日本のスポーツ界ではアマチュアからプロに至るまで神社における必勝祈願が珍しくないが、それに対してキリスト教会がスポーツの祈りを神学的にどう展開できるか、今後の小さくない課題である。

成員の信仰告白を基盤とする宗教共同体（教会）とは異質であり、かつ高度で多彩な専門性を持った人々の自由と独自性を保証された空間＝大学で、何が祈られるべきで、何が祈られていないか、今後の課題と検討を含めて読者の便宜に供したい。

大学新任教職員研修会⁷ 開会祈祷（2017年4月3日）

ここに集まった私たちを、作り変えてください。

学生に命令するのではなく、忍耐強く導くことができますように。権力に頼るのではなく、人々の善意に頼ることができますように。恐怖をあおって周囲を動かすのではなく、仲間の情熱をかきたてることができますように。

神さま、私たちを作り変えてください。

時間通りに集まれと叫ぶのではなく、時間前に行って待っていることができますように。物を壊した部下を叱るのではなく、壊れたものを一緒に直すことができますように。仕事のやり方を口で言うだけではなく、実際にやって見せることができますように。⁸

神さま、イエスのような、皆に仕えるリーダーとならしめてください。新しく青山学院大学に集った一人一人の教職員を、祝福してください。新しい仲間

7 新任教職員の多くが、キリスト教の祈りに初めて触れる場でもある。キリスト教の知識や経験がほとんどない人々に、建学の精神をいかにわかりやすく、短く共有できるかが問われる。

8 以下から引用した言葉を祈りに書き換えている。「リーダーシップ」、『キャンプ・カウンセリング』、ベースボール・マガジン社、1966、82頁。

たちとの出会いを通して、私たちをも新しく作り変えてください。

学部長会開会祈祷（2017年6月26日）

前大学事務局長Sさんの走りぬいた、その64年の生涯を思います⁹。あなたが常に、喜びの時も悲しみの時も、そして命から死へと移り行く時も、共にいて見守ってくださったことを信じます。今、Sさんは、あなたの足元の涼しい場所で、地上の苦しみから解き放たれ、平安の中にいると私たちは信じます。

しかしながら、この突然の別れを前にしたご遺族の悲しみは計り知れません。また、青山学院で汗を流して共に働き、励ましあい、慰めあった同僚たちの受けた痛みと虚しさも大きいものです。神さま、その虚しさの中に「わたしはあなたと共にいる…わたしは…決して見捨てない」（創世記28章15節）との神の言葉を与えてくださり、私たち一人一人をSさんの志を引き継ぐものとさせてください。¹⁰

9 S氏は多くの方に慕われたが病氣療養のため休職、惜しまれつつ逝去された。このように教職員、学生が亡くなった場合、宗教主任はすみやかに報告を受け、直近の礼拝、会議の開会時に祈る。大学共同体における死の共有は、宗教主任の最も重要な責務の一つといえる。

10 預言者エゼキエルは神から「人の子」（מְאִדְּכָן アダムの子）と呼ばれる。この呼称は「エゼキエル書全体で約93回用いられる」が、それは「歴史の主導者であり、時代を超越する神と、時間的存在としての人間との対比を浮き彫りにする。それは神の栄光、永遠性、絶対性を前にした、人間の脆弱さ、有限性、死すべきものとしての姿を反映している。」（『聖書 原文校定による口語訳 エゼキエル書』、フランシスコ会聖書研究所訳注、1996、サンパウロ、19頁）この点を踏まえTEV（Today's English Version）ではמְאִדְּכָןをMortal man（死すべき人間）と訳している。人間に向かい再三語られる“Mortal man”との呼びかけ—人間の有限性が自覚され、安易なヒューマニズムへの歯止めとなる促し—が最も聞こえにくいのが、可能性に満ちた若者が集う学校という空間かもしれない。その意味で教育共同体の健全さを守るためにも、学校に与えられた死を避ける・忘れるのではなく、深く自覚し記念することが求められる。

学部長会開会祈祷（2017 年 10 月 29 日）

あなたは最もふさわしいものを、ふさわしい時に与えてくださる方であると信じます。あなたが今、私たちにどのような時を与えてくださっているか、見極めるための知恵を与えてください。始めなければいけない時なのでしょうか。ならば果てしのない議論をやめる勇気を与えてください。それとも我慢して継続しなければいけない時でしたら、どうぞ忍耐する力を与えてください。結論を引き延ばすことがないように、また拙速となることがないように私たちの議論を見守り、より良い大学となるよう導いてください¹¹。

ゴールデン&シルバー・ジュビリー記念式典祈祷（抄）¹²（2017 年 9 月 23 日）

年月とともに、体力、気力などが奪われ、古いアルバムも色あせたように見えます。しかし、外なる人が衰えていくとしても、それと同時に本当に大切なものも見えてきます。時代と共に移り行く、過ぎ去っていくものではなく、いつの時代にも変わらない、真実を、信仰、希望、愛を見出していけますように力づけてください。「見えるものではなく、見えないものに目を注ぎ」（Ⅱコリント 4 章 18 節）、日々新しくされ、神と人ともに仕える私たちでありますように。

この日を覚えながら、この集いに参加できなかった同窓生を覚えます。病気のため、闘病のため、家族の介護や看病のために来られなかった仲間たちに、

11 2017 年度、青山学院は短大の募集停止、法科大学院の募集停止など重要な決断の時を迎えていた。その議論と決断がこの祈りの背後にある。

12 卒業後 50 年（ゴールデン）、25 年（シルバー）を迎えた校友を記念し、同窓祭当日に行われる。元来ヨベル（英語名 jubilee）とは、7 年に一度の安息の年を 7 回重ねて第 50 年目に守られた解放の年のことである。（レビ記 25 章参照）すべての奴隷が解放され、売られた土地の権利は所有者に返還される。この世界と人生が「自分のもの」ではなく、「神のもの」であることを思い起こす年でもある。

イエス様、その病床に共にいてください。遠方のため、海外にいるため、駆けつけることができなかった友の上に、ここと変わらない聖霊の恵みを与えてください。特に神さま、この日を迎える前に、若くしてこの世を去った同窓生のために祈ります¹³。すでに彼、彼女はこの世にはいなくとも、その友情は今も変わらず、今日も新しいことを覚えさせてください。様々な事情で、この集いに参加できない地上の友、天上の友、それらすべてがこの礼拝堂に同席していることを信じます。これからのかけがえのない日々を、彼ら、彼女らとともに歩ませてください。

エバーグリーン募金イベント¹⁴ 開演前祈祷（2017年10月28日）

神さま、あなたが私たちに求めることは、現実の前にうなだれることではなく、あなたの示す希望を信じて喜ぶことです。

あなたが私たちに望むことは、不平とため息を、歌声と祈りに変えることです。

あなたが私たちに願うことは、私たちがうつむいて嘆くことなく、今日も与えられた命に感謝して生きることです。

神さま、あなたの求めに応じ、私たちは今日を喜び、今、祈り、すべてに感謝します。

本日、和泉元彌氏を迎え、あなたはここに豊かな舞台を形作ってくださいました。この日のために汗を流し、技術を磨き、準備をした一人一人の心と体を

13 脚注8参照。

14 学院への寄付者を対象とする講演会などのイベント。同窓生で狂言師の和泉元彌氏を迎えた当日、独特の能舞台の袖で公演前に開会祈祷を行った。このような学校行事・学事暦の周辺部分である各種イベントや記念会、食事会の開会時に、礼拝や祈祷を依頼されることが青山学院では少なくない。

お守りください。この舞台を通して、私たちがあなたにあって喜び、祈り、感謝の心を新たにできますように。

宗教センター 始業の祈り¹⁵ (2017年9月20日)

私たちが仕事するのではなく、仕事に私たちが振り回されたり、イライラして人や物に当たったり、時間をかけても結果を出せずに傷ついてしまう時、多くの場合、私たちの仕事の優先順位が混乱しています。神さま、私たちの今日の働きの優先順位をあなたが示してください。今日やるべきこと、やらなくてよいこと、あなたにゆだねることは何か、教えてください。何よりもその優先順位が一番上に「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」(マタイ6章33節)を置くことができますようお守りください。

体育会総会¹⁶ 祈祷 (2017年12月20日)

神さま、健康を与えられ、勝利を手にした学生たちを祝福してください。一人一人の努力を形としてくださり、かけがえのない青春の日に、生涯に残る、よき思い出を与えてくださったあなたをほめたたえます。

敗北を味わった学生たちを慰めてください。目の前で喜ぶ勝利者を前にし

15 幼稚園から大学院までの宗教活動を統括する青山学院宗教センターの働きは9:00の職員による祈祷で始まる。学院宗教部長もしくは大学宗教部長が同席できる場合はいずれかの部長が祈ることが慣例になっている。

16 1年間の体育会の活動総括と感謝のため、すべての体育会がガウチャー礼拝堂に集まる。新年度に向けて新しい幹部の紹介、学長挨拶、応援団のエールなどが礼拝形式で行われる。

て、悔しくて流した涙をあなたがぬぐってください。勝利することよりも、時として敗北することの方が、人生では大切な経験なのだと私たちは信じます。

試合に出られなかった者、ケガで練習できなかった者たちの、心と体を強めてください。レギュラーになれなくとも、一生懸命チームのために応援した彼ら、彼女らの誇り高い心を、あなたが顧みてください。ケガのために練習できないときにこそ、見える景色があります。その景色を通して、人間として一段と成長できるよう、ケガで休んでいる者たちを、あなたが見守り、その体の傷を一日も早く治してください。

神さま、今年もそして来年も、勝利のために真剣に、練習と試合に臨めますよう体育会に属する学生たちを励ましてください。安易に試合を投げ出すことは、チームメイトにとっても、また戦う相手にとっても、そして神さま、あなたに対しても失礼なことなのだと教えてください。やがて体育会での活動を終える日が来ても、神のみ前で、より良い人間へと成長する戦いは、生涯続くのだと、私たちが理解して出発できますように。

付 録

陸上競技部箱根駅伝報告会（祝勝会）開会祈祷 全文

（藤原淳賀 2018年1月3日）

（アーメンとはその通りです、心から、という意味です。祈りの中でそのような思われた方はこのお祈りの終わりに一緒にアーメンと一緒に言って心を合わせて下さい。）

青山学院の真の創設者であり、礎であるイエス・キリストの天の父なる神様、あなたの聖なるお名前を崇めます。

あなたがこの国に、そしてこの地に青山学院大学を置くことをよしとしてくださり、私たちの日々の歩みを守っていて下さることを感謝致します。

只今から、体育会陸上競技部 第94回東京－箱根間 往復 大学駅伝競走 優勝祝賀会を持ちます。

青山学院大学 体育会 陸上競技部は、4連覇を成し遂げました。

原監督ご夫妻の献身的なお働きとご指導がありました。コーチの方々のご指導がありました。部長、マネージャーの方々、OB/OG会の方々のご支援、学友会の方々のお支えがありました。そして関係者すべての方々のお働きがありました。大会運営の方々、スポンサーの方々のお支えがありました。沿道、TVの前の方々の応援がありました。

選手たちは、早朝からの、応援団、チアリーディング部、吹奏楽バトントワリング部の応援に送り出されて、また迎えられました。

多くの方々に支えられて今日の4連覇があったことを覚えます。

そして天の父よ、何よりもあなたがずっと見守っていてくださったことを覚え感謝致します。

苦しくなかった選手はいません。一人もいません。

皆、困難な中、苦しい中、全力で走りました。

多くの方々が、選手たちの走りに励まされたことと思います。

自分の人生に重ねて、私たちの選手たちの走りを見ておられた方々が日本中に大勢おられたことと思います。本当によく走ってくれました。

私たちの陸上競技部がこのように走ることができましたことを感謝いたします。

また陸上競技部で共に歩んできた、そして共に走ってきた、走ることが許されなかったメンバーたちを覚えます。

彼らも選手たちと同じ心でこの箱根駅伝を戦いました。

神様、あなたが私たちのことを、その心の喜びも、痛みも、悲しみも、辛さ

も、悔しさも、絶望感もすべてご存知でいてくださることに感謝致します。

あなたの支えに感謝致します。

また他大学の陸上競技部のために祈ります。

彼らも、同じように練習を積み、この晴れの舞台に備えてくれました。

正々堂々と全力で走りました。私たちはその走りを目の当たりにしました。¹⁷

どうか彼らにもあなたが豊かに報いて下さいますように。

青山学院大学 陸上競技部の故に日本の大学陸上界のレベルが向上してきていることと思います。

私たちが、また陸上競技部が、決して傲慢にならず、謙虚に、サーバントリーダーとしてすべての方々に仕えていく走りをすることができますように支えて下さい。

そして青山学院が、地の塩、世の光としての走りをすることができますように。

私たち皆をこよなく愛して下さい、あなたの御前にあり、救い主、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン

17 以下の聖書のことばを思い起こさせる。「終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。」(フィリピの信徒への手紙 4 章 8 節) 日本カヌー連盟は 2018 年 1 月 9 日、東京五輪を目指すトップ選手 (32) がライバル選手の飲み物に禁止薬物を混入させ、ドーピング検査を陽性にさせたと発表した。この選手は他のライバルに対しても、練習や競技で使用する道具などを盗む形で妨害行為を繰り返していた。(「ライバルの飲料に薬物」東京新聞 夕刊 2018 年 1 月 9 日 1 頁) 相手の失敗をひそかに願うどころか、積極的に足を引っ張り、犯罪に手を染めてでも勝ちたい、と考えるトップアスリートがいる。単純な必勝祈願に終わらず、フィリピの信徒への手紙が語るライバルに対するリスペクトの精神を、勝敗に関わらず成熟した人間を形作る願いを、スポーツの祈りの根底に置くべきと痛感する。